

学力向上推進プロジェクト事業

学力向上推進協議会報告書

～静岡県の子どもの「確かな学力」育成に向けて～

静岡県学力向上推進協議会

平成27年12月2日

はじめに

ラグビーワールドカップ2015イングランド大会では、長期低迷にあえいでいた日本代表チームが、世紀の番狂わせと呼ばれた「南アフリカ」チームへの逆転勝ちを含む、予選グループで3勝をあげ、世界に日本ラグビーを印象付けました。

代表チームのヘッドコーチにエディー・ジョーンズ氏が就任し、常に試合での状況を意識したハードな練習を繰り返すことで、選手たちは海外の選手に負けないフィジカルとメンタルの両面で自信をつけていきました。そして、力を試す機会であるワールドカップの舞台で、その力を発揮し成果を収めました。

そのワールドカップの始まる約2か月前、平成27年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。平成26年度における全国学力・学習状況調査における回復を受け、引き続き平成27年度もその成績を維持できました。まさに、「安堵から自信へ」とつながる結果となりました。子どもたちにとっても、自己肯定感を感じる良い機会となりました。

この学力調査の目的を文部科学省では、3点挙げています。

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握や分析をし、教育施策の成果や課題を検証して、その改善を図る。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

静岡県では、学力・学習状況調査の結果を生かして、PDCAサイクルを各学校で回しています。その中には、各学校での、地道な取組に加え総合教育センターや教育事務所が連携して行う、オール静岡での早期対応等の施策も含まれています。

そして、各学校が、問題を解いたり、結果を分析したりし、それを児童生徒・保護者・地域へフィードバックする流れが確立してきたことが何よりの成果です。また、こうした分析結果を、教育課程編成や授業改善に生かすことが、当たり前に行われるようになったことが、目の前の子どもたちの姿を見つめることにつながっているのです。

一方で、言うまでもなく子どもの学力向上には「授業改善」が重要です。静岡県の授業改善については、「よりよい自分をつくるためにⅢ・Ⅳ」がベースとなっています。各学校では、「学びの実感を積み重ねる」を合言葉に、研修に取り組んでいます。教師にとって、授業改善は終わることのない最も重要な仕事です。

ラグビー代表チームが、2019年のワールドカップ日本開催に向け、現在の力を維持・向上させていくことの難しさは、選手・関係者のみなさんが一番分かっていることと思います。点での成果が、線としてつながるためには、授業改善に対する不断の取組が不可欠です。静岡県の先生方の、ますますのご活躍を期待しております。

静岡県学力向上推進協議会
会長 村山 功